

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 20 日現在

機関番号：20102

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20520233

研究課題名 (和文) ヴィクトリア朝後期の女性運動と文学の共鳴

研究課題名 (英文) The Rhetoric of Body Politics: Popular and Radical Imagination in the Late Victorian Feminism and Literature

研究代表者

市川 千恵子 (ICHIKAWA CHIEKO)

釧路公立大学・経済学部 准教授

研究者番号：10372822

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：英米・英語圏文学

キーワード：女性運動、散文、性道徳規範、女性医師、ヴィクトリア朝後期

1. 研究計画の概要

本研究課題は、女性の活動領域の拡大をめぐるヴィクトリア朝後期の社会的な動きと同時代の文学的想像力が相互に影響を与えあった様相を、多様なジャンルの女性著述家の散文から解明することを目指すものである。性病防止法撤廃運動の中心人物であるジョゼフィン・バトラーは、これまで活動家として捉えられてきたが、「抗議と抵抗の文学」とも呼ぶべき多くの著作物を残した。また、ソファイア・ジェックス＝ブレイクによる英国女性医師の誕生をめぐる闘争劇は、英国社会特有の女性蔑視の根深さを物語る。しかし、彼女の活動によってロンドンに女子医学校が開校されると、女子医学生や女性医師をヒロインとする小説が登場し、彼女たちは文学的アイコンとなる。現実にもそうであったように、文学的想像力においても女性医師は、英国、そして帝国の女性の身体守護者として表象されていく。性病防止法から女性医師の誕生という社会的動きのなかで、女性たちが連帯し、自らの身体を回復する政治的な声の獲得の過程とその戦略性を具体的に明らかにしたい。さらに、世紀末の〈新しい女〉小説家によって、活字媒体は結婚制度と女性の性をめぐる政治の討論の場と変わる。だが一方で、医師で作家のアラベラ・ケニーリーは優生学の見地から、女性の性を「母性」に吸収させてしまう。世紀転換期の女性表象の揺れ動きを考察し、女性表現に隠された社会・国家との争闘、あるいは共謀の痕跡を読み解くことを目指す。

2. 研究の進捗状況

本研究課題の初年度は、ジョゼフィン・バトラーによる英国内の性病防止法撤廃運動

の一環としての執筆活動に焦点を当て、講演原稿からパンフレットや伝記まで、多岐にわたる彼女の著作物を調査した。彼女の活動の原動力が怒りであり、その著作には女性の身体を支配する家父長的権威を転覆する野心が暗示されている。この意味において、バトラーは 19 世紀女性の著述に新たなスタイルを切り拓いたと言える。バトラーが女性医師の役割に注目したように、英国初の女性医師エリザベス・ブラックウェルもまた社会浄化運動の担い手の一人であった。

二年目から三年目にかけては、女性医師による著作と、女性医師をめぐる社会的・文化的コンテクストを調査した。女性医師のパイオニア世代のなかでも積極的に執筆活動を展開したブラックウェルは、女性の身体を管理する法と医学界のミソジニーの非道性を訴えた。また、彼女が複数の著作において当時の女性の性的欲望をめぐる神話を否定したことは、女性が性について語る契機をもたらし、世紀末の〈新しい女〉の誕生へと連動していることが明らかになった。また、作家活動を展開したマーガレット・トッドとアラベラ・ケニーリーの小説において、それぞれのフェミニズムに対するスタンスは異なるが、両者の女性医師の表象には同性の身体守護者としての使命が見出され、同時にそのことが物語の展開上でも重要な役割を果たす。医学という新たな領域に参入した女性たちのヒロインはいずれも〈新しい女〉の範疇に入る。

最終年度にあたる今年度は、小説研究を中心に、世紀末の文化的現象である〈新しい女〉をめぐる言説を検証し、ヴィクトリア朝後期から世紀転換期にかけての国家、帝国、ジェンダーを取り巻く文化的なコンフリクトを

検証し、女性による社会運動と文学表象との相関関係を照射することになる。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

理由：バトラーの性病予防法撤廃運動をめぐる著作活動、ならびに女性医師のパイオニアのブラックウェル、医師兼作家のトッドとケニーリーの著作の検証は予定通りに進んでおり、その成果を国内外の学会において積極的に発表している。また、現在は二本の投稿論文が査読中である。女性による身体政治のための声を読み解いてきた結果、ヴィクトリア朝後期、とりわけ 1880 年代・90 年代の世紀転換期は、フィクション、ノンフィクションを通じて、書き手としての女性が自らの個人的な経験を社会的経験として発信し、そうした政治的言説を読者としての女性が共有し、消費する文学的市場が成立し、同時に活字媒体が政治的な討論の場として機能した時代であったことが明らかになってきている。

4. 今後の研究の推進方策

今後残された研究期間(平成 23 年度)は、セアラ・グランドのテキストに刻まれた性の二重規範への抵抗と、女性の身体への暴力と搾取に対する抗議としての政治的な声を検証する。そのうえで、家父長的社会における女性の生と性の搾取に対する抵抗と抗議としての女性たちの運動と執筆活動の相関関係を検証することを目的とする本研究課題の包括的結論を出すべく、研究計画を推進していく予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

1. Chieko Ichikawa, "Writing as Female National and Imperial Responsibility: Florence Nightingale's Scheme for Social and Cultural Reforms in England and India", *Victorian Literature and Culture* 39.1 (2011): 87-105 (査

読有り).

[学会発表] (計 6 件)

1 市川千恵子, 「〈癒し〉の表象とジェンダー・ロールの変遷—エリザベス・ギヤスケルの『ルース』から〈新しい女〉小説へ—」, 第 22 回日本ギヤスケル協会全国大会、2010 年 10 月 3 日、実践女子大学.

2. Chieko Ichikawa, "The Portrait of a Medical Student as a Young Woman: Margaret Todd's *Mona Maclean*", *Women Writers in Fin de Siècle International Conference*, 2010 年 6 月 28 日、英国 ロンドン大学.

3. 市川千恵子, 「ジェイン・エアの『娘たち』—メアリ・カーペンターとジョゼフィン・バトラー—」, 第 8 回日本ヴィクトリア朝文化研究学会全国大会、2008 年 11 月 15 日、関西大学.

4. 市川千恵子, 「『書く女』の政治的表象」(シンポジウム「ギヤスケルと伝記文学」), 第 20 回日本ギヤスケル協会全国大会、2008 年 9 月 28 日、神戸大学.

5. Chieko Ichikawa, "Body Politics of Their Own: The Crusade of Josephine Butler", the 9th Annual Conference of the British Association of Victorian Studies (*Victorian Feeling: Touch, Bodies, Emotions*), 2008 年 9 月 3 日、英国 レスター大学.

[図書] (計 2 件)

1. 松岡光治編『ギヤスケルで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化』(市川千恵子、第 18 章「売春—混迷のボディ・ポリティクス」執筆担当)、溪水社、2010 年、347-364.

2. 日本ギヤスケル協会編『エリザベス・ギヤスケルとイギリス文学の伝統』(市川千恵子、第 25 章「女のペンのポリティクス—『シャーロット・ブロンテの生涯』執筆担当)、大阪教育図書、2010 年、289-299.

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕